



★『死の臨床研究会』参加報告★

10月11日・12日に第39回日本死の臨床研究会年次大会が岐阜市で開催されました。

今回の大会は、岐阜での開催であったので、岐阜県内の緩和ケアに関わる医療者や一般の方や学生さんがボランティアで実行委員となり、1年以上前から準備を重ねてきました。

当院の緩和ケアチームや緩和ケア病棟のスタッフも有志が参加し、大会を運営する力の一部となってきました。

私も大会の2日間は全くプログラムを聴講することなく、ひたすら会場を駆け回っておりましたが、参加者が3000人を超える大盛況となり、いつものことながら会場が一杯で入場できないプログラムも数件発生し、せっかくおいでいただいたのに満足できずに帰ることになった方もみえることを、大変残念に申し訳なく思います。

今回裏方を経験してみても、手作りで行うというこの「死の臨床研究会年次大会」の運営の大変さが身にしみてわかりました。

これからこの大会に参加する時には、会場がいっぱいでプログラムが聴講できなくても、会場に不備があっても文句を言わず、動き回っているスタッフには「お疲れさま」とやさしい眼差しで温かい声をかけた（できればですが…）と思いました。

(文責：伊藤浩明)



第4回 緩和ケア勉強会を行いました。

今回は若年性がん患者の診断から治療、在宅療養へ移行し看取りとなった事例でした。患者を支えることはもちろん、わが子を亡くす親への支援や、在宅療養をする意味を深く考えさせられた勉強会でした。家に帰って『これがやりたいんだ!!』という方も見えますが、『いつもの生活』を送りたいと選択する・・・そんな思いで在宅療養へ移行するのもいいことだなあと感じました。



緩和ケア市民公開講座のご案内

日時：平成27年11月14日(土) 14:00~16:00
場所：パロー文化ホール 大ホール
内容：『これからの生き方を考える』～とらわれない生き方～
座談会出演：横井 登(元教員)
藤本 眞知子(看護師・がんサバイバー)
虎山 義秀(保寿院住職)
講演会講師：虎山 義秀(保寿院住職)

